

News Release

2022 年 09 月 29 日

この資料は BASF 本社(ドイツ)が 2022 年 9 月 6 日に発表した英語のプレスリリースを BASF ジャパンが日本語に翻訳・編集したものです。

BASF、中国・湛江の新たなフェアブント(統合生産拠点)に新工場を開所

- 新工場は、中国の顧客向けに年間 6 万トンのエンジニアリングプラスチックコンパウンドを生産
- 100%再生可能エネルギーによる電力供給
- 今後は、フェアブントの中心部を構築するための本格的な工事段階に入る

BASF(本社:ドイツ ルートヴィッヒスハーフェン)は 9 月 6 日、中国の広東省湛江市(タンコウ市)のフェアブント(統合生産拠点)における、最初の工場を竣工しました。この工場は、中国の顧客向けに年間 6 万トンのエンジニアリングプラスチックコンパウンドを追加供給し、2023 年には BASF のアジア太平洋地域におけるエンジニアリングプラスチックの総生産能力は 42 万トンとなる予定です。この新工場により、BASF は自動車やエレクトロニクス業界を中心とした顧客の需要増に対応することができます。

BASF SE の取締役会会長である Dr. マーティン・ブルーダミュラーは、「湛江フェアブントは、輝かしいスタートを切ることができました。新工場の操業開始は、この拠点への道を開くものです。完成すれば、世界で 3 番目に大きなフェアブントとなり、中国および世界における持続可能な生産の好例となることでしょう」と述べています。

この工場には、100%再生可能なエネルギーの電力が供給される予定です。BASF は、2025 年までに湛江フェアブント全体の電力を 100%再生可能エネルギーで賄うことを目指しています。

BASF のアジア太平洋地域の責任者である BASF SE 取締役会のメンバー、Dr.マーカス・カミートは、次のように述べています。「湛江フェアブントは、最新のデジタル技術と最高の安全基準で建設されます。この工場は、高品質で低炭素の製品を提供し、中国南部の顧客とより強力なビジネス関係を築き、中国市場に対する当社の取り組みを明確に示すことになるでしょう。」

2020 年、BASF は湛江のフェアブント予定地で、最初の工場の建設を開始しました。2022 年 7 月、BASF はダイナミックな中国市場における顧客の成長をサポートするため、スチームクラッカーと下流製品向け工場を含む湛江フェアブントの中心部の主要建設フェーズへの最終投資決定を行いました。このフェーズは、2025 年後半の稼働を目標としています。多様化のためのさらなる下流製品向け工場を含む拡大フェーズは、2028 年までに稼働する予定です。

2018 年 7 月の発表の通り、BASF 湛江フェアブントは、2030 年までに最大 100 億ユーロを投じ、BASF の単独責任の下で運営されます。これは BASF にとって過去最大の投資となります。2023 年には、熱可塑性ポリウレタン(TPU)の生産工場の稼働を予定しています。

※このプレスリリースの内容および解釈については英語のオリジナルが優先されます。

■BASF について

BASF(ビーエーエスエフ)は、ドイツ ルートヴィッヒスハーフェンに本社を置く総合化学会社です。持続可能な将来のために化学でいい関係をつくることを企業目的とし、環境保護と社会的責任の追及、経済的な成功の 3 つを同時に果たしています。また、全世界で約 110,000 人の社員を有し、世界中のほぼすべての産業に関わるお客様に貢献できるよう努めています。ポートフォリオは、6 つの事業セグメント(ケミカル、マテリアル、インダストリアル・ソリューション、サーフェステクノロジー、ニュートリション & ケア、アグロソリューション)から成ります。2021 年の BASF の売上高は 786 億ユーロでした。BASF 株式はフランクフルト証券取引所(BAS)に上場しているほか、米国預託証券(BASFY)として取引されています。BASF の詳しい情報は、<https://www.basf.com> をご覧ください。